民間側被告

鹿兒島步四五聯隊付 候補生中島忠秋(三)

陸軍側被告

後藤映範(三)

(0

不 再

村上大尉房中

有言英雄回首即神仙 我胸中更無風波如鏡

# 帝都 まづ犬養首相を暗殺

陸海軍人が關係、民間側呼應 前古未曾有の大陰談響

送達され、陸、海軍側においてもそれんと建新手履きに移つた、よのて十七日午後五時を以て司法省から右事件に闘する全貌を公表し内務 仁禮法務官輔佐び、陸軍側は第一師関軍法會議の松村法務官(前半は小幡法務官擔當)、民間被告は東京地方裁判所大野豫審判事(中里、小幡兩豫審判事輔佐) の前古未曾有の大襲撃事件が觸線するところ廣派に、根ぎすところ深きに鑑みて事性意とより観察書歌とらずて観察記録と、登録と思いまというので、しかして参加者は愛郷婆、梨山婆、慶民茂死隊、摩癬竜々人でさながら石製電が着の結晶でも右翼遊撃隊の觀があり、顧問のスローガンを經とし、懲難成態民群、慶民茂死隊、摩癬竜々人でさながら石製電が着の結晶でも右翼遊撃隊の觀があり、顧問のスローガンを經とし、懲難成態民群、ところの君民共治の思想を緯とするかれ等問志のいはゆる「昭和維新の烽火」で国のスローガンを經とし、懲難成態民群、ところの君民共治の思想を緯とするかれ等問志のいはゆる「昭和維新の烽火」で国のスローガンを經とし、懲難成態民群、以下の君民共治の思想を緯とするかれ等問志のいはゆる「昭和維新の烽火」で国のスローガンを經とし、懲難成態民群、以下の君民共治の思想を緯とするかれ等問志のいはゆる「昭和維新の烽火」で 電歌が飛に、屋電艦や街は代々木の陸電艦皮渉が脱に、しかして民間や街は前ヶ谷及び豊多摩の威那が脱に吹客され、磁電艦は東京電電港、整頭橋孝三郎、天行會長頭山秀三、紫山塾頭本間憲一郎以下民間被告十一名(内 | 総免労) 諸四十八祭、この間蔵撃されたもの海軍現役將校十五名、同豫備將校一名、陸軍士官候補生十一名、神武會長大川甲、この間蔵撃されたもの海軍現役將校十五名、同豫備將校一名、陸軍士官候補生十一名、神武會長大川甲、前古未曾有の大襲撃事件が觸談するところ廣派に、視ざすところ深きに鑑みて事性直後より 機察當局をあげて総密周到なる捜索 主任となって爾來三省ほど一致の歩調を以て豫審調べを進めてゐたが事件發生以來滅一年の五月十三日 凄惨なその 夜 内外各所變電所を襲撃、帝都の動脈を切斷せんとして一世を範囲せしめたがこの事性の核心は政黨、「琺瑯並に特権階級音相を暗殺して目的の一端を達し、影響、その一黨は「要人暗殺」「帝都暗黑」を目標に艱難に分れ首相官既、五・一五事性――元懿相并上進之助、圖琢磨兩段職態の配點壓事件につざいて變酸した光養首相階級事性は昭和七年五月十五路の事件直後、一切の 分擔、 一齊に各所を襲撃

非常手段によって

卓の率ゐる第



春雄(三)

漢村 豐(四)

日

新升

隠れて免る

聞

をとし「治排薬が日田原信氏に十五日に奉」 天ケ谷菊雄兩氏が出迎へ自治指 とし「治排薬が日田原信氏に十五日に奉」 天ケ谷菊雄兩氏が出迎へ自治指 とし「治排薬が日田原信氏に十五日に奉」 天ケ谷菊雄兩氏が出迎へ自治指 とし「治排薬が日田原信氏に十五日に奉」 天ケ谷菊雄兩氏が出迎へ自治指

大著述後悠々自首

▼頭山滿翁△ 內田處

不精神に基く皇道政治の實現を期するためには非常手段により政策、財閥、特権階級などの優勢力を打倒せざい。

利私飲のみに没頭し國政を築り國家存立の大義を過りたるものとなしこれが革正をはかり真に

◇テロ計畫を支援

めて決死的逮捕の第一線に階り或は行方探査のため田舎 人一摘主義を採り不眠不休の活動を置けてさしもの大事件も頭山秀三の検撃で捕物の幕を閉ぢたが、逮捕に當つた捜査官は或は銭兜、防弾、紫山勢頭状間懲一郎、最後に十一月五日天行會長頭山秀三を検撃するまで約半歳の間、捜査営局は一人検撃すればその口から他の一人を採りている。



となる人(の)と中声自り書き、冷島二級出籍でき来を代したらと、「人の無話でして、四郎五郎一」とは、四郎五郎十二

### でき毎点されずなった。この間後 一部間木内熱事が終と提続しては 終り継しておこの事件にを何麗 の顕落されい知ならな体へって見 鑑の高いのご郷し入でけるい 置地鹸箔ス

の端へようでは、このである。 三の透明するでする。 ないまする。 はいまする。 はいまなる。 はいなななる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいまなる。 はいなな。 はいなな。 は 送二一語へ類を禁門軍と、由秦龍白聖

東國國憲海

概然の留字関係に象事協盟

頭山の否値な暴靄

鑑 熱 間 め 中

本間の

**對国際系** 

太田平瀬二部洞県会・よびあの田(瀬四丁目二三)の第十月字・護田(これを罪功し)がならより太短しばのであった。「国内山下田康孫らへ内隷亜端藩藩「於を鑑はせば

### 頭山奈二字藍龍の發 派んが斂事連

軍帝剛極出疆

**慶宏野**〇歩告歓 

木内斂事淘渺〇會見 **電響い
動養い
事を
し**日 簡思様やおり | 「本学学・「大学会社」 | 1219年12年12年12日 | 1219年12日 | 1219年12日

いてて、海には、海のでは、大学のでは、一般には、中では、いっている。これでは、大学のでは、 おりあて刺上を高い面舎してきている。これでは、一つことを高してきている。は、一つことを高している。は、まない、のでは、まない、のでは、まない、のでは、いいない、のでは、いいない、のでは、いいない、いいない

は第二のでの上海が出

かって本を題み対

東山条二 おはようて 清波譜を

七里中福 Oct 5年1日

<u></u>
一般型 コ 引 子 値 し 式 人 す

47、四番4年五十五日7巻末 第一部の第章後間を到外です。 14年の本ででは、新軍中侵に、252日本諸国本語者には、252日本諸国本語者には、252日本土草の本での第一班が、1867日本、1867日本 1867日本、1867 

中心棒無士 棒原卡N氙 警艦 

# 大きは第一方な客団人員な少いのと声器な十分がよい等の事が以来のようなない。 ととの関係との関係を 置受工

周明第一

## とストル、資金の努受 輝死し オ 瀬 井 火 出 す 出 大

**車** 中 類 生 熱 過 經

コンは書間圏条地部をロコチャッの いまとり加端の場合は ト本語のでは、または、 ・本語など、またまして、 ・本語など、またまして、 ・のでは、 ・し。 ・し。 ・し。 一数合の語談があってあ

四時十年一月八日弥共11日台 古人染石、四元義劉、班35五後 道、人木田諸定等お銀軍席内の 同志式を務軍中掲古貿報志。同 中林義嶽、同心境村山谷之。同票 号展等と趙谷園介、木土原門 人大數緬甸即由大計式 の監派アチの實行大

新軍院 成の同語の本

よで同尺卅一日非土日谷、古 活で、が登五優別、《木田添 浜田太狐、田中疣誠等対 第〇四各と共コ難熱気順の四各と共コ難を対

よれる表表上日の部立の本と語り日の語立の本と語が目

十日かみて廻感の間が汁を調味が指達しこれが出産している。

### 大国心情な好ない重晩 中解解われ家

1、4~)に七百刻都中市島松木「尾塗塗切跡、同吉風珍口、同種は同己職業(七郎1、4~)が第1年とは、同名の第2。 同人本権戦・同西

満形在ら橋へか日

士官學對主新기計令

(江))重

新軍衛馬出

同班元 無一(三)

) - 10 M) N

本籍治質市崖脈正面四次 電水解光質市崖脈正面四次 中間 **力質** 高元(1) 中間 **力質** 高元(1) 本籍治腎線小飯鴉兆冬(1) 原五三 鷗疹醫療無 高五三 鷗疹醫療無 高五三 鷗疹醫療無 一次間 **於一**(1) 本籍治貿線小飯鴉兆冬(1) 本籍治貿線小飯鴉彩冬(1)

表記を成ららの後間もなう古鷺・中村の海中様や日沿き様は日流をはて「鰯を加ば、一部をはなり、脚が加減をできるこれで

五・一五事や被告に通知圖

回本銀訂

要的學演習

軍側な中心となり、 業園的副数を売げて 井上日子等の素売を 胃節をこととの意味に 日間職職機会の表売を

松子 開いる大澤羅となって多 上部事養 ア輝瓦 した瀬 株殖空心 出知中は、右鷹編 中根と決コ

デ護をコエス・のよう 

新華 野田恐(た\*)(以) 本籍美麗編成部宮川市中原園 四〇四二 新軍人の照上 新華、監兵學出 大場・暫 更 合(以)

本華 (本語 ) 本 (本 ) 和 (本 ) 和

真治(三)

以工裏面へ